

令和7年度

城ノ内中等教育学校（前期課程）  
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- 生徒が主体的・協働的に学び、生徒の個性や創造性を伸ばす授業の実践
- 科学的な思考力・表現力・読解力を育む授業の実践

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員	委員
仁木 将之 (進路指導課長)	西浦利幸(校長)、木下美香(教頭)、鈴江涼子(教務課長)、藤田康平(企画・研究課長)、仲田一恵(1学年主任、国語科主任)、東條良栄(第2学年主任、技術・家庭科主任)、篠原貴道(第3学年主任、数学科主任)、田中靖江(英語科主任)、石田有佳里(理科主任)、瀬尾学(社会科主任)、松山由香里(保健体育科主任)、林伸也(芸術科主任)

校長

西浦 利幸

【各校の取組状況の把握について】

○授業参観の報告や学力推移調査、学校評価アンケート等に基づき、様々な機会を捉え、取組状況の把握・検証・共有を行う。

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す生徒の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○基礎的・基本的な知識・技能については、習得率も高く、与えられた課題にもまじめに取り組むことのできる生徒が多い。 ●文章や資料を正確に読み取り、身に付けた知識等と関連付けることに課題がある。	・知識・技能を確実に身につけ、既習の知識・技能と関連付けて活用することができる。 ・長い文章やグラフ・表などの資料を正確に読み取ることができる。	・習得すべき知識・技能を明確にして、授業を計画・実践する。 ・定期考査等で知識・技能の定着度を測り、必要に応じて学習支援を行う。 ・文章や資料を読み取り、既習知識と関連付けて解答する問題演習や考査問題を作成する。	・言語活動等、生徒がアウトプットする機会を増やす。	・定期テスト前後で、学習内容に不安を抱える生徒に対して、各教科において学習支援を実施できた。 ・各教科において、資料の読み取りや知識・技能を活用した考査問題を作成できた。	・各教科において、後期課程と連携し、各年間で身につける知識・技能を明確化し、授業を組み立てる。 ・ICTの学習コンテンツを活用し、基礎的な知識・技能の定着を支援する。

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す生徒の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○話すことや書くことを通して、自分の感想や考えを表現することができる。 ●他者の意見から、考えを深めたり、根拠をもとに論理的に自分の意見や主張を伝えることに課題がある。	・対話的な学びによって、自己とは異なる意見を知ること、自己の考えを相対化し再構成することができる。 ・学習活動の目的・目標を明確に理解し、各教科の見方・考え方を働かせて課題をつかむことができる。 ・根拠をもとに自分の考えをわかりやすく論理的に表現することができる。	・すべての教科で協働的な学習の機会を取り入れ、言語活動を充実させる。 ・各教科の見方・考え方を働かせて考察する活動を充実させる。 ・データを選択・分析し、それを根拠として自分の考えをまとめる活動を取り入れた学習を充実させる。	・資料の提示や読み取りの時間を設け、思考力を養う問いを立てる。	・教育活動全体を通して、タブレット等のICTを活用し、協働する場面や自分の考えをまとめて表現する活動を充実させることができた。 ・探究活動を通して、データの分析や根拠をもとに考察する活動を充実させることができた。	・根拠をもとに、自分の意見を論理的に整理し、表現する力を身につけさせる活動を充実させる。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す生徒の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○授業や与えられた課題に熱心に取り組む、新しい知識の習得に意欲的な生徒が多い。 ●自ら課題を発見・設定し、見通しをもって課題解決に向けて取り組む力が求められる。	・自主的に家庭学習に取り組む、学習時間が各学年の掲げる目標時間に達している。 目標時間 1年生:120分 目標時間 2年生:120分 目標時間 3年生:140分 ・見通しを立てて学習に臨み、自らの学習を調整しながら粘り強く取り組むことができる。	・学習実態調査を活用し、生徒に自分自身の学習時間を振り返らせる。また、生徒との面談を通して、学習習慣の定着に向けてアドバイスをを行う。 ・ICTの学習コンテンツを活用し、生徒の興味関心やニーズに合わせて、個別最適な学習を進められるよう支援する。 ・自ら問いを立て問題解決に取り組む探究活動を充実させ、生徒が見通しをもって進められるよう支援する。	・身の回りのさまざまな事象に目を向け、学習内容と関連付けて考えることができるよう、授業の中でさらに取り上げていく。	・「分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか」の問いに81.9%の生徒が「できている」「どちらかといえば、できている」と回答している。(全国学力学習状況調査) ・学習実態調査(年4回平均値) 1年生:151分 2年生:151分 3年生:156分	・学習習慣の不十分な生徒に対して、家庭での学習方法や学習内容などを例示して、学習習慣を定着させる手立てを講じる。 ・生徒自らが見通しを持って学習や探究に取り組む場面を引き続き設けていく。

令和7年度 学力向上ロードマップ

